

呼吸器の疾患・障害においては、人工呼吸器の進歩とそれに付随する問題点への対応、栄養療法との関わり、慢性疾患としてのフォローアップ体制の確立など、多職種で取り組むべき課題が多いのが現状である。近年では、呼吸サポートチーム、呼吸ケアチームなどの名称で多職種が協働する取り組みが進められている。今回の特集では、チーム医療として呼吸機能障害に取り組んでいる実践の報告を通して、その注意点・留意点、今後のあり方について提示していただいた。

■呼吸機能障害における諸問題とチーム医療のあり方（蝶名林直彦論文）

急性の呼吸機能障害は、生命維持に直結する影響を持つと共に、慢性化した後も ADL に重大な変化をもたらす。本稿では呼吸不全に至る疾患を病態別に分類したのち、代表的疾患である ARDS、COPD 急性増悪および神経筋疾患における人工呼吸管理の要点と、チーム医療で共有すべき情報について解説した。そのうえで理学療法士がチーム医療の中で行うべき役割と、今春の診療報酬改定での RST 加算において、参加が必須条件となっていることに触れた。

■急性期病院における呼吸ケアチーム医療と理学療法士の役割（鶴澤吉宏論文）

平成 22 年度の診療報酬改定で、呼吸ケアチームに対する診療報酬が新設され、その中で理学療法士の参加が必須となった。専門分化が進み専門性が高くなるにつれ、このような横断的なチーム体制が求められている。今後の発展を期待し、現状の課題も含めて概説した。

■外来診療につなぐ呼吸ケアチーム医療と理学療法士の役割（瀬崎 学，他論文）

呼吸器疾患を抱える方々が入院から外来へ円滑に移行でき、外来維持期においても安定した療養生活を送るためには、理学療法士はよりエビデンスの高い方法で運動療法を継続できるように支援することに加え、様々な治療法（薬物・栄養療法など）と共に有効に機能できるよう呼吸ケアチームとして働きかける必要がある。本稿では、近年蓄積された外来呼吸リハビリテーションの報告を概説すると共に、当院での入院から外来診療にむけた呼吸ケアチームの取り組みを論述した。

■地域連携の中での呼吸ケアチーム医療と理学療法士の役割（長谷川信，他論文）

呼吸ケアは、患者教育を含む疾病管理、呼吸理学療法などの多岐にわたる反面、医療制度などにより短期入院または在宅での対応では不十分な面がある。また、呼吸ケアに対応できる医療機関や医療従事者不足も存在している。これらの問題に対して、われわれはチームで一貫した呼吸ケアが行えるよう地域連携クリニカルパスを作成し、実践した。地域連携によるチーム医療における理学療法士に対するニーズは高い。その役割について報告する。

■慢性呼吸不全患者への訪問リハビリテーション（中田隆文論文）

訪問リハビリテーションの対象となる慢性呼吸不全には、呼吸器疾患、神経筋疾患などがある。呼吸リハビリテーションは他職種チームで実施されるため、訪問呼吸リハビリテーションでは複数の施設間の情報連携が重要である。訪問呼吸リハビリテーションは薬物療法、呼吸療法、栄養管理などの各項目と連動して調整され、実施される。訪問呼吸リハビリテーションを行うセラピストは呼吸障害者の評価とプログラムの実施以外にも、呼吸リハビリテーションを構成する各項目に関する知識や情報を統合し、伝える技術が必要である。